

広島県フロラ覚書 (8)

広島県のチトセカズラ (マチン科) の新産地*

井上尚子¹⁾・近藤芳子²⁾・吉野由紀夫³⁾

Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture (8)

New locality of *Gardneria multiflora* Makino (Loganiaceae) in Hiroshima Prefecture, Japan *

Naoko Inoue¹⁾, Yoshiko Kondo²⁾ and Yukio Yoshino³⁾

Summary

Additional locality in Hiroshima Prefecture is reported for *Gardneria multiflora* Makino (Loganiaceae), which have been known at only one locality recent years. They grow in the mixed evergreen and deciduous broad-leaved forest along ravine.

はじめに

チトセカズラ (*Gardneria multiflora* Makino) は、マチン科の木本性常緑つる植物で中国大陸中南部と台湾、日本に分布する (Yamazaki 1993)。日本国内においては江戸時代から栽培品が知られていたものの、明治時代中期までは日本在来の植物かどうか明らかでなく、牧野富太郎は 1892 年に小石川植物園にあった栽培株を元に新種として記録した (Makino 1892)。しかし牧野は 1901 年に岡山県在住の植物研究者、吉野善介から岡山県に自生していた本種の標本の寄贈を受け、これを日本在来の野生植物と認め、タイプ標本に基づき正式に新種として発表した (Makino 1901)。

チトセカズラの分布域については、これまで三宅 (1986) が山口県、狩山 (2009) が岡山県、鳥取県生物学会 (2012) が鳥取県の範囲で図示している。また Yamazaki (1993) は日本、Ping-tao and Gilbert (1996) は中国における分布域を記載している。これをみると本種は中国大陸に広く分布するが、日本国内においては岡山県を中心として兵庫県から山口

県の間と沖縄県のごく限られた場所に隔離的に分布することが分かる。前川 (1977) は日本の植物相をその分布の特徴に従って 9 つに分けているが、本種はチョウジガマズミ、ヤマトレンギョウ、アオイカズラなどととも中国大陸と関係が深い「阿哲地域」の植物としている。

チトセカズラは、日本においては環境省が絶滅危惧Ⅱ類に選定している (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) 2015)。広島県においては絶滅のおそれのある野生生物が初めて公表された 1995 年には絶滅危惧種に選定された (広島県 (編) 1995) が、その後広島県版レッドデータブック見直し検討会が絶滅危惧Ⅰ類に選定しなおし (広島県版レッドデータブック見直し検討会 (編) 2004)、2012 年にレッドデータブックひろしま改訂検討委員会が前回に続けて絶滅危惧Ⅰ類に選定した (レッドデータブックひろしま改訂検討委員会 (編) 2012)。

広島県以外でチトセカズラが分布している県においては、兵庫県が C ランク (準絶滅危惧種相当。兵庫県農政環境部環境創造局自然保護課 (編)

* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.104

1) 広島市植物公園, 2) 広島市安佐南区 (故人), 3) 東和環境科学株式会社
Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden, No.33: 137-142, 2016.